

# 1. 評価結果概要表

**【評価実施概要】**

事業所番号	272100736		
法人名	社会福祉法人つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム安住の里		
所在地 (電話番号)	〒037-0104 青森県つがる市稲垣町豊川宮川143番地1 (電話) 0173-46-3100		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 10月 8日	評価確定日	平成 20年 11月 7日

**【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)**

**(1) 組織概要**

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

**(2) 建物概要**

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

**(4) 利用者の概要(9月1日現在)**

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	尾野医院
---------	------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

<p>ホ - ムと地域との連携がよくとれていて、地域の中の一軒家としての関わりが普通に行われている。季節毎の野菜を頂いたり行事の時はお互い行ったり、ホ - ムに来たりと地域の中でいい関係を持ち、維持している。</p>
--

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回から取り組みは継続されている。(前々回からの薬品、物品の保管場所に施錠)個人情報保護に対してもカウンタ - には名前の分かるようなものは置かない。個人記録も外部からは見えない鍵のあるキャビネットで保管管理している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホ - ムの自己評価をする事で職員と管理者は業務の見直しをする機会となった。又職員に自己評価の意義や目的を伝え理解する事で、全員でサービスの質向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に一度定期的に行われている。メンバーには、行政、家族、民生委員、福祉協力委員などの方が入りサービスに関する意見交換をしてサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時に生活状況や近況報告をしている。苦情や要望は来訪時にいつでも聞くようにしているが投書箱も設置して言いにくい事でも意見を出せるように配慮している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に挨拶を交わし地域の老人会と行事に参加し交流して顔馴染みとなっている。地域の方は野菜や山菜を届けてくれたり、入居者の方とも気軽に声をかけあい、良い関係を築いている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の方が地域の中で安心して暮らせるよう事業所の理念は職員みんなで作り上げ、サービスを展開している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホ - ムの理念は玄関の見やすい所に掲示している。理念に沿って職員各自が個人目標を掲げ、管理者がコメントを入れて評価をしながら、理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域周辺の方々と普通に挨拶を交わし、また老人会とは行事を通じて交流している。法人内では認知症サポーターの講習会を開催し、また管理者は認知症の方も地域の中で安心して暮らせるよう認知症に対する理解や関わり方についての普及活動に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解しており、自己評価をする事で意識して改善に向け取り組んでいる。また前回の評価を踏まえ、改善点を上げ計画的に取り組み支援している。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの事業報告やサービス内容の報告、外部評価の報告をし、意見等頂きサービス向上に反映させている。		
6	7	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時はもとより、行事、外部評価の結果等を報告しその都度意見を頂き、問題があれば一緒に協議しサービスの質向上に取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について勉強会をしている。必要となった場合には、いつでも活用出来るよう体制を整えている。		
8	9	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は併設施設の職員が参加した研修資料を参考に職場でOJTを実施している。日頃から管理者は身体的、言語的、精神的虐待のないよう注意を呼びかけ入居者の観察、職員の相談にのり、周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書を用いて、本人や家族が理解出来るように説明し、納得頂いている。特に家族は入院した場合のその後の対応についても不安があり、丁寧に何回も説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会のある家族にはその都度、ホームでの生活状況を説明している。その他毎月利用料請求書を送付するときに日々の状況や預かり金の出納状況を文書で報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱を設置するとともに、気軽に話せるよう行事や面会の時、運営推進会議の時などに家族等の意見、要望を聞いている。職員全員で受け止め、ミーティングや苦情委員会で話し合い改善に取り組んでいる。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限にしているが、変わった時には入居者に説明すると共に、職員がかわっても同じ対応とするよう心がけ、不安のないよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用者は採用一ヶ月以内に初任者研修会を行い、継続研修は年間計画に沿って年一回以上の研修参加が定められている。又技術的なものは職員相互に学び合っている。外部研修への参加も推奨し、研修後は報告と資料を閲覧している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協会で意見交換や勉強会をしている。又お互い施設訪問をし合い交流を図り、サービスの質向上に繋げている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームのサービスを説明し、見学を実施したり、短期入所を利用してホームに馴染んで頂いたり、家族と相談してホームに馴染み、入所出来るように支援をしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の職歴、生活歴を把握し、日常生活の中では、たたみ物や掃除など一緒に行い、豊かな経験を持つ入居者から学び、支え合う関係を築き、生活を支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から情報を得ながら、ご本人の希望や意向を聞き、職員間で共有し、本人本位でケアをしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族面会時や電話で入居者がより良く暮らすための情報を得ながら、関係者と話し合って介護計画に意見を反映させ支援している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期に又随時、見直しをしているが月2回ケース検討会を設け、意見を出し合い、家族の意見も取り入れ、介護計画の見直しをしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設の機能訓練員の協力、入居者の状態により、オンラインバス等、入浴方法を選べる体制で支援している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を把握し、受診前後の相談をしながら、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		<p>現状のかかりつけ医の中に精神科の専門医の治療を受ける機会が少ないが、出来るだけ治療の機会を減らすべく介護の力でフォローアップする努力が感じられるので、今後も継続することと、専門医の治療の機会が増えることを期待したい。</p>
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族がホ - ムでの看取りを希望している入居者がいる。重度化した場合や終末期を迎えた場合でも入居者が安心してサービスを受けられるよう、医師、看護師の協力体制を整えている。重度加算の対象となるが、今のところ申請を行っていない。</p>		<p>必要な法的関係書類の整備や申請を行い、継続的なターミナルケア(看取り)の取り組みに期待したい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居時に重要事項説明書で本人、家族に個人情報やプライバシーについて説明をしている。一人ひとりに対して人権を尊重し、声の大きさ、ゆっくりとした言葉がけをしている。又個人記録は鍵のあるキャビネットに保管し、カウンタ - には名前の見えるものは置かないなど配慮している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のタイムスケジュールは決まっているが、入居者の意見や体調等考慮し希望を聞き、支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事形態は1人1人に合わせて提供している。又準備も献立に沿って食材の話など、五感で楽しみながら、おしぼりたたみやテ - プル拭きの役割を持って、一緒に作業をしながら支援している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は入居者のタイミングに合わせて声がけし、一人の介護者が誘導、着脱介助と一連の流れを一人ひとりのペースに合わせて支援している。寝たきり状態の方は併設施設のオンラインバスを利用している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴を把握し、過去の経験から出来る事を活かして野菜の皮むき、テーブル拭き、チラシの箱作りなど役割を持って楽しみながら生活できるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>春から秋までは月2回の野外活動計画を立て近隣の道の駅へショッピングに出かけたり、希望があれば入居者の方に合わせ外出支援をしたりしている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束はしないケアについて理解をしている。やむを得ず施行する場合は家族に具体的に説明をし同意を得ている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は鍵をかけることの弊害を理解している。玄関にセンサーを取り付けるとともに、入居者の行動を見守っているので、日中は施錠していない。夜間は安全確保のため施錠している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回防災避難訓練を実施して、入居者が安全に避難出来る避難経路の確保、地域の方、消防署の協力を普段から得られるよう取り組み、支援している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設施設の栄養士が献立を作成し、バランスを考え一日の栄養摂取量や水分量を確認し、個々の咀嚼状態を考慮して食事形態を考え、支援している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成し勉強会をしている。特に手洗いを励行し毎年職員と入居者はインフルエンザ予防接種をし感染予防に努めている</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は臭気もなく、採光の調整もされてゆったりしたスペースである。飾り付けも季節感があり、春には草花にも触れることができ、居心地よい環境で支援をしている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は入居者の状態に合わせ、一緒に配置換えや模様替えをしている。仏壇を持って来ている居室の一角には畳を敷き、家での生活を感じさせ、又使い慣れた時計や鏡など持参して頂き、本人が居心地よい環境となるよう整えている。</p>		

 は、重点項目。